

ホームページ公開・研究対象者情報通知用

研究科題名：回復期リハビリテーション病棟における脳卒中・大腿骨近位部骨折・脊椎圧迫骨折患者の低栄養リスクの予後予測モデルの開発と検証

・はじめに

令和 6 年度の診療報酬改定により、回復期リハビリテーション病棟では、入院時と退院時に栄養状態を評価することが求められるようになりました。過去の研究によると、回復期病棟に入院する患者さんの約 4 割が低栄養または低栄養のリスクを抱えており、脳卒中や骨折、廃用症候群などさまざまな病気で特に高い割合が報告されています。低栄養はリハビリテーションの効果を妨げ、回復や転帰に悪影響を及ぼすことが知られています。そのため、できるだけ早い段階で低栄養のリスクを見極め、適切に対応することが重要です。

本研究では、回復期病棟に入院した患者さんを対象に、入院後に低栄養に陥る可能性を予測するモデルを開発し、その妥当性を検証することを目的としています。

・対象

2024 年 6 月 1 日から 2025 年 6 月 30 日に当院回復期リハビリテーション病棟に入棟した脳卒中、大腿骨近位部骨折、脊椎圧迫骨折患者様。

対象者となることを希望されない方は下記連絡先まで 2026 年 3 月 31 日までにご連絡ください。

・研究内容

カルテより後方視的に基本情報として年齢、性別、疾患名、現病歴、既往歴、入院日、発症日、退院日、入院前の生活状況を、栄養関連項目として体重、BMI、下腿周径、日常生活の介助、入院後 1 週間の食事摂取量、食事の充足率、食事形態、栄養評価（MUST、GLIM 基準）に関する情報の調査を致します。

・個人情報の管理について

調査結果は対応表を用いて匿名化し保管します。また、研究関係者以外の第三者が調査結果を閲覧することができないようにします。

本研究の実施過程およびその結果の公表（学会や論文等）の際には、患者様を特定できる情報は一切含まれません。

・調査期間

研究を行う期間は倫理審査委員会承認日より西暦 2026 年 12 月 31 日までに

なります。

・医学上の貢献

本研究により対象者となった患者様が直接受けることのできる利益はございません。しかし、入院後に低栄養に陥る要因を明らかにすることで、今後の入院患者への栄養支援に役立てることができると考えられます。

・利益相反に関する事項について

本研究における開示すべき利益相反関係にある企業などはございません。

・研究機関

老年病研究所附属病院 リハビリテーション部
理学療法士 齋藤 拓之（責任者）

・連絡先

〒371-0847

群馬県前橋市大友町3丁目26番8号

Tel：027-253-3311（公益財団法人 老年病研究所附属病院）

担当：齋藤 拓之